

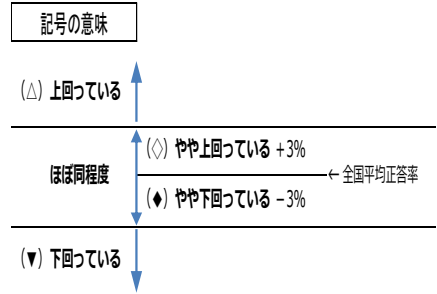
IV 教科別の課題と分析

1 小学校 国語

設問別調査結果 [小学校 国語A：主として知識]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数（問）	平均正答率（%）	
			札幌市	全国（公立）
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	△	43.2
	書くこと	4	◆	53.0
	読むこと	3	◇	60.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	15	◆	62.6
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	1	◆	44.9
	話す・聞く能力	1	△	43.2
	書く能力	4	◆	53.0
	読む能力	3	◇	60.1
	言語についての知識・理解・技能	15	◆	62.6
問題形式	選択式	7	◇	66.3
	短答式	10	◆	61.9
	記述式	1	◆	44.9



※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			札幌市		全国（公立）	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	正答率（%）	無解答率（%）	正答率（%）	無解答率（%）
1-（1）	漢字を読む（乗り物の券を買う）	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				○		○	◇	0.5	98.9	0.5	
1-（2）	漢字を読む（子孫のためにゴミをへらす）					○		○	△	2.1	79.2	2.2	
1-（3）	漢字を読む（めずらしい植物を採集する）					○		○	▽	4.1	64.9	3.1	
1二（1）	漢字を書く（魚をやく）	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○		○	▽	8.1	72.4	5.6	
1二（2）	漢字を書く（バスがていしゃした）					○		○	▽	15.5	46.9	11.0	
1二（3）	漢字を書く（委員会をもうける）					○		○	▽	33.6	53.5	27.4	
2-	ことわざの意味として適切なものを選択する（石の上にも三年）	ことわざの意味を理解する				○	○		◆	1.0	71.1	1.2	
2二	ことわざの意味として適切なものを選択する（急がば回れ）					○	○		◇	0.8	86.1	1.2	
3-	文のはじめの5文字を丸で囲む	文の定義を理解する				○		○	◆	19.6	36.5	20.2	
3二（1）	接続語を使って1文を2文に分けて書く	文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く		○		○		○	◆	11.3	23.4	10.3	
3二（2）	「だから」と同じような働きをする接続語として適切なものを選択する	接続語「だから」のもつ働きを理解する				○	○		◇	3.2	83.3	3.5	
4ア	「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、年代ごとの割合から分かることを書く	目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書く		○				○	—	12.1	72.4	11.9	
4イ	「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、全体から分かることを書く			○				○	◆	18.3	71.3	18.1	
4ウ	「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、全体から分かることを書く			○				○	◆	20.9	44.9	20.3	
5ア	マナーに関する広告を読み、編集の仕方の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する	広告を読み、編集の特徴を捉える			○	○	○		△	8.0	61.1	9.2	
5イ	マナーに関する広告を読み、編集の仕方の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する				○	○	○		◇	9.0	71.7	10.3	
6アイ	焚火とその周りの景色との関係を表したものとして適切なものを選択する	俳句の情景を捉える			○	○	○		◇	12.7	47.5	14.4	
7	選手宣誓文の表現の工夫とその効果を説明したものとして適切なものを選択する	スピーチの表現を工夫する	○			○	○		△	19.9	43.2	21.9	

(△)上回っている (◇)ほぼ同程度だがやや上回っている (—)全国平均と同じ (◆)ほぼ同程度だがやや下回っている (▽)下回っている

【設問分析】

1 漢字を読んだり書いたりする

①は、学年別漢字配当表に示されている当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみるものである。設問一は漢字を読むことについて、設問二は漢字を書くことについて、それぞれ3問ずつで構成されている。

【設問一】漢字を読むこと

- (1) 5年生の配当漢字である「券」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- (2) 1年生の配当漢字である「子」と4年生の配当漢字である「孫」の熟語「子孫」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率を上回っている。
- (3) 5年生の配当漢字である「採」と3年生の配当漢字である「集」の熟語「採集」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率を下回っている。

【設問二】漢字を書くこと

- (1) 4年生の配当漢字である「や(く)」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を下回っている。
- (2) 4年生の配当漢字である「てい」と1年生の配当漢字である「しゃ」の熟語「ていしゃ」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を下回っている。
- (3) 5年生の配当漢字である「もう(ける)」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を下回っている。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」における「漢字を読むこと」については、全国の平均正答率と比較すると(1)はやや上回り、(2)は上回っている。(3)は全国平均正答率を下回っており、長音を正しく表記していない誤答が見られた。今後は、読み仮名を正しく発音し、表記するように指導することが大切である。

また、「漢字を書くこと」については、三問とも全国の平均正答率を下回っており、依然として課題がある。漢字を書くことの指導においては、習得した漢字を文や文章の中で適切に使うことができるようにすることが重要である。そのためには、習得した漢字の音訓、部首、点画などに間違いがないかどうかを日常的に確認するとともに、文や文章の中で果たす漢字の意味を捉えた上で、正しく使用しているかどうかを評価するように指導することが大切である。さらに、各教科等の学習や日常生活の中でも、国語辞典や漢字辞典を積極的に利用して調べる習慣を身に付けることによって、語彙を広げ、漢字を正しく書くことができるようにしたい。

2 ことわざの意味を理解する

②は、ことわざの意味を理解することができるかどうかをみるものである。

【設問一】「石の上にも三年」の意味として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】「急がば回れ」の意味として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」における「ことわざの意味を理解すること」については、全国の平均正答率と比較して、設問一は全国の平均正答率をやや下回っており、設問二はやや上回っている。

今後も、ことわざの意味や使い方を正しく理解し、自分の表現に用いることができるようにすることが重要である。そのためには、辞書利用について学習する第3学年の段階から意図的・計画的に国語辞典やことわざ辞典などの活用について指導し、日常化を図ることが大切である。また、辞書をはじめ、本や文章の中で使われていることわざや慣用語、故事成語をカードなどに書き写し、活用することができるようにすることが大切である。

3 文の構成を捉える

③は、文の定義を理解し、文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができるかどうかをみるものである。

【設問一】文のはじめの5文字を丸で囲む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】

- (1) 接続語を使って1文を2文に分けて書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。
- (2) 「だから」と同じような働きをする接続語として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と「書くこと」領域における「『だから』と同じような働きをする接続語として適切なものを選択すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っており、正答率も高い。「文のはじめの5文字を丸で囲むこと」と「接続語を使って1文を2文に分けて書くこと」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っており、正答率も低い。

今後の指導にあたっては、伝えたい内容を相手に的確に伝えるために、まず主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係などに着目しながら、文の構成を整えることが重要である。また、必要に応じて適切な接続語を使って、文と文との意味のつながりに注意することも大切である。

文の定義や文及び文章の構成については、学年の段階に応じた指導が重要であり、具体的には、次のような指導が考えられる。

【第1・2学年】 文の定義を確実に指導し、文を単位として論理的に関係付けることができるようにする必要がある。1つの段落の中にいくつの文が含まれているかを捉えたり、1文の中の主語や述語に印を付けたりするなどの指導を繰り返す。

【第3・4学年】 修飾と被修飾との関係をはっきりさせ、文の構成について初歩的な理解ができるようにする必要がある。「だれが」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などの観点に基づいて、文を分析的に捉える指導を行う。

【第5・6学年】 文の中での語句の係り方や照応の仕方に気付き、いろいろな文の構成があることを理解できるようにする必要がある。特に、重文や複文等について2つ以上の内容を1つの文に書き換えたり、2つ以上の内容が含まれた1文を内容ごとに複数の文に分けて書いたり、箇条書きにしたりするなど、言語を操作する指導が大切である。

4 資料から分かったことを書く

4は、目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書くことができるかどうかをみるものである。

【ア】「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、年代ごとの割合から分かることを書く設問では、全国の平均正答率と同じである。

【イ】「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、年代ごとの割合から分かることを書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【ウ】「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、全体から分かることを書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「書くこと」領域における「目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書くこと」については、全国の平均正答率と比較すると、【ア】はほぼ同程度であり、【イ・ウ】はやや下回っている。特に、【ウ】については正答率も低く、年代における割合の変化を的確に捉えて書いていない誤答例が多く見られた。また、無解答率も高いことから、グラフから必要な情報を読み取った上で、分かったことを条件に合わせて文章を書くことに課題が見られる。

今後の指導にあたっては、資料に表された情報を正しく読み取ったり、必要な情報を取り出して的確に記述したりすることができるように指導することが重要である。具体的には、次のような段階的な指導が考えられる。

【ステップ1】

資料に表された情報を正しく読み取る。グラフを読む際には、以下の点に留意する。

- ① 表題、調査時期、調査対象などを確認する
- ② 凡例(グラフの中の記号の意味)を確認する
- ③ 数量の大小や差異、全体的な特徴を捉える
- ④ 基準点(平均や数値の逆転など)を設定し、変化の特徴を捉える
- ⑤ 目的に応じて、読み取った内容を比較したり統合したりして考察する



【ステップ2】

読み取った情報を取り出して、的確に記述する。その際、以下のような表現するための言葉を具体的に指導する。

- ・「～するにつれて～なる。」
- ・「しだいに～なる。」
- ・「～は…だが、～は…だ。」
- ・「～より、～の方が…だ。」

さらに、資料から情報を取り出すだけでなく、その情報を基に自分の考えを書くことが重要である。具体的には、調査したことを報告する文章を書くなどの言語活動を設定し、図や表などに用いた具体的な数値と自分の感想や意見を区別するように指導することが考えられる。その際、新聞記事の書き方などを参考にすることが有効である。

5 広告の特徴を捉える

【5】は、広告を読み、編集の特徴を捉えることができるかどうかをみるものである。

【ア】マナーに関する広告を読み、編集の仕方の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【イ】マナーに関する広告を読み、編集の仕方の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「読むこと」領域における「広告を読み、編集の特徴を捉えること」については、全国の平均正答率と比較すると、【ア】は上回っており、【イ】はやや上回っている。

今後も、広告のほか、雑誌や新聞、情報誌など、日常生活における様々なメディアの情報を正しく捉えるためには、それらの情報の内容や形式の両面に注目し、編集の特徴を捉えることができるように指導することが大切である。そのためには、全体を概観しながら、キャッチコピーの表現技法、文章と写真や絵との関係などを観点として捉えた上で、評価することが考えられる。

6 俳句の情景を捉える

【6】は、俳句の情景を捉えることができるかどうかをみるものである。

・ 焚火とその周りの景色との関係を表したものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「読むこと」領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」における「俳句の情景を捉えること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているが、正答率は低い。

今後の指導にあたっては、俳句の情景を捉えるために5・7・5の17音から、季節や風情、俳句に込められた作者の思いなどを想像したり、言葉の美しい響きを感じ取ったりしながら、文語の調子に親しむように指導することが重要である。そのためには、音読や暗唱の言語活動を取り入れ、様々な言葉からイメージを豊かに膨らませたり、自らがイメージした情景を他者に分かりやすく伝えたりすることができるように指導することが大切である。このような指導は、下記のように第3・4学年から段階的に指導するとともに、日常的に俳句と出会うような場づくりも大切である。

【第3・4学年】

- 様々な言葉からイメージされる「色」や「季節」について考えたり、そこから思い浮かんだ情景を絵にしてみたりする。
- 様々な俳句を読む機会を設け、その中から自分のお気に入りの俳句を見つけて友達に紹介する。

【第5・6学年】

- 俳句から読み取った情景などを説明するための言葉についての理解を深める。
- 俳句の書き換え（リライト）をし、オリジナルと書き換えたものを読み比べながら、受ける印象の違いなどを話し合う。

7 スピーチの表現を工夫する

7は、スピーチの表現を工夫することができるかどうかをみるものである。

・選手宣誓文の表現の工夫とその効果を説明したものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

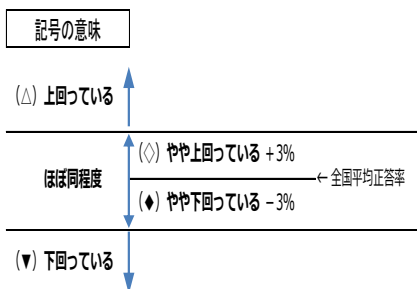
「話すこと・聞くこと」領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」における「スピーチの表現を工夫すること」については、全国の平均正答率を上回っているが、正答率は低い。比喩法・列挙法・反復法・擬声法・倒置法などの表現技法を区別した上で、それらの効果について適切に捉えることに課題がある。

目的や意図に応じ、自分の考えが明確に伝わるようにスピーチの構成や表現を工夫することは、国語科の学習のみならず日常生活においても重要である。そのためには、まずは、自分の立場や結論を明確にした上で全体の構成を工夫するとともに、事実と感想、意見とを区別して整理することが大切である。具体的には、表現技法（比喩法・列挙法・反復法・擬声法・倒置法・誇張・省略・対句）を用いてスピーチ原稿を書き換えたり、聞き手にどのように受け止められたかといったスピーチの効果について、特に表現技法の面から評価し合ったりするように指導することが大切である。また、これらの指導を充実させるために、1分間スピーチなどを計画的に行うことも必要である。

設問別調査結果 [小学校 国語B：主として活用]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	◆	64.8
	書くこと	4	◆	43.8
	読むこと	4	◇	47.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	◆	63.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	2	◆	42.5
	話す・聞く能力	3	◆	64.8
	書く能力	4	◆	43.8
	読む能力	4	◇	47.9
	言語についての知識・理解・技能	1	◆	63.8
問題形式	選択式	3	◇	59.7
	短答式	5	◇	45.9
	記述式	2	◆	42.5



※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			札幌市		全国(公立)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1一	助言の際に6年生がとった対応の説明として適切なものを選択する	相手の立場や状況を感じ取って聞く	○				○			◆	1.3	78.8	1.2
1二	6年生の助言の仕方の説明として適切なものをそれぞれ選択する	話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言をする	○				○			◆	1.6	48.5	1.2
1三	川本さんの助言についての説明を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言をする	○	○				○		◆	12.5	67.2	9.7
2一	「打ち上げ花火の歴史」という見出しに合わせて必要な内容を書き加える	目的や意図に応じ、必要な内容を適切に書き加える		○		○	○			◆	5.1	63.8	4.4
2二	【ずかんの一部】の中から花火師の苦勞が具体的に書かれている内容を引用して書く	目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書く		○			○			◇	14.3	26.2	13.3
2三	複数の内容を関係付けた上で、自分の考えを具体的に書く	目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書く		○				○		◆	25.5	17.8	20.4
3一ア	【本間さんが書いたすいせん文】において推薦している対象を書く	2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉える			○		○			◇	16.1	49.7	15.7
3一イ	【花田さんが書いたすいせん文】において推薦している理由を書く				○		○			◆	29.9	45.3	28.8
3一ウ	【本間さんが書いたすいせん文】において推薦している理由を書く				○		○			—	30.9	44.6	30.6
3二	2人の推薦文を比べて読み、それぞれの読み方として適切なものを選択する	2人の推薦文を比べて読み、読み方の違いを捉える			○		○			◇	9.7	51.9	10.6

(△)上回っている (◇)ほぼ同程度だがやや上回っている (—)全国平均と同じ (◆)ほぼ同程度だがやや下回っている (▼)下回っている

【設問分析】

1 話し手の意図を捉えながら助言をする（レクリエーション活動）

①は、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめて助言をすることができるかどうかをみるものであり、3つの設問で構成されている。

【設問一】助言の際に6年生がとった対応の説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】6年生の助言の仕方の説明として適切なものをそれぞれ選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問三】川本さんの助言についての説明を書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「話すこと」領域における「話し手の意図を捉えながら助言をすること」については、全ての設問で全国の平均正答率と比較して、やや下回っており、特に、設問二については正答率も低く課題がある。

今後の指導にあたっては、まずは、相手の話の内容を正確に理解することが重要である。そして、自分の考えと比べながら聞くことを重視し、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめるようにすることも重要である。いずれの場合においても、聞いた内容について確認したり、質問したりしながら、相手の話を十分に聞き取ることが前提であることを指導することが大切である。また、その際には、相手の立場や状況を十分に感じ取ろうとする共感的な態度で相手が話す内容を理解しようとすることが重要である。また、助言する際には、具体的な意見や提案を一方向的に伝えるのではなく、相手が自ら課題を解決できるような助言となるように指導することが大切である。具体的には、以下のような基本的な構えやポイントに留意して「共感しながら聞く→質問する→助言する」ことができるよう指導することが重要である。

【ステップ1】共感

- 相手の顔を見て集中する
- あいづち・うなずき
- 大事なことをメモする
- 相手の立場や状況を理解しながら聞く

【ステップ2】質問

- 分からないことを聞く
- 相手の情報を確かめる
- 理解が正しいか確認する
- 相手の情報を整理したり目的を確認したりする

【ステップ3】助言

- 自分の直接体験、収集した知識や情報、相手がもち得ていない観点などを基に助言する
- 相手の選択の幅を広げる

2 目的や意図に応じてリーフレットを編集する（打ち上げ花火の伝統）

②は、目的や意図に応じ、必要な内容を書き加えたり、引用したり、複数の内容を関係付けたりしながら、リーフレットを編集することができるかどうかをみるものであり、3つの設問で構成されている。

【設問一】「打ち上げ花火の歴史」という見出しに合わせて必要な内容を書き加える設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】「ずかんの一部」の中から花火師の苦勞が具体的に書かれている内容を引用して書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】複数の内容を関係付けた上で、自分の考えを具体的に書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

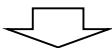
「書くこと」領域における「目的や意図に応じ、必要な内容を適切に書き加えたり、引用したり、複数の内容を関係付けたりしながら、リーフレットを編集すること」については、【設問一・三】は、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。特に、【設問三】については正答率そのものが低く、無解答率も高いことから課題が見られる。また、【設問二】については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているが、正答率が低い。

今後の指導においては、読み手に伝えたいことが分かるように、具体的な事実などを引用して書くことと、事実を関係付けながら自分の考えを明確に書くことが重要である。

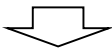
引用については、テーマや見出しなどに合わせて内容を選択したり、引用した内容が目的や意図に依拠しているか否かを判断したりすることができるように指導することが大切である。また、引用する内容が全体の分量に比べて適切な量になるように全体とのバランスを考えて書くことも指導する必要がある。さらに、原文を正確に引用することや引用した内容と自分の考えを書いた文章との関係を考えることも重要である。

調査したことを報告する文章などにおいて自分の考えを書く際には、まず一つ一つの事実に対する自分の考えをもち、編集の目的や意図に応じた自分の考えの中心を明確にしながらか一定の条件に合わせて書くことが大切である。具体的には、以下のような指導の手立てが考えられる。

① リーフレットの見出しに合わせて、事実と考えを明確に区別して書く



② 目的や条件に合わせた上で、中心となる考えを明確にして内容をまとめる



③ 字数などの条件に合わせて書く

3 本や文章を読んで推薦文を書く〈新美南吉「ごんぎつね」〉

③は、2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉えるとともに、本や文章の読み方の違いを明確にすることができるかどうかをみるものであり、2つの設問で構成されている。

【設問一】2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を書く設問である。

ア 全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

イ 全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

ウ 全国の平均正答率と同じである。

【設問二】2人の推薦文を比べて読み、それぞれの読み方として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「読むこと」領域における「2人に推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉えるとともに、本や文章の読み方の違いを明確にすること」については、全ての設問において全国の平均正答率そのものが低い。さらに、【設問一】においては無解答率も高く、課題がある。推薦者それぞれの読書経験に着目し、推薦する理由として捉えることができていない誤答例が多く見られる。

今後の指導においては、目的に応じて本や文章を読み、相手意識を明確にして推薦文を書くことが重要である。そのためには、自分の目的とともに、推薦する相手の目的も考慮し、どのような本や文章を取り上げるのか、取り上げた本や文章の何を主に推薦するのかなどを明確にすることができるよう指導することが大切である。その際、本設問のような推薦文の実例を基に構成や表現の工夫を分析することで、相手によく伝わるような書き方を工夫することができるよう指導することが大切である。

また、本や文章を推薦するためには、取り上げる本や文章の特徴を捉えておくことが重要である。本や文章の特徴を捉えて推薦するためには、まずは推薦の観点を知識として獲得し、その観点に基づいて本や文章を繰り返し読み、相手に分かりやすく推薦することが求められる。

例えば、物語を推薦する場合、下記のような観点に基づいた効果的な読み方について具体的に指導する必要があり、多様な読み方（1つの作品を精読したり再読したりする、複数の作品を重ねたり並行したりして読むなど）を経験することによって、本や文章の特徴を深く理解するとともに、推薦する内容を明確にすることができる。

物語を推薦するときに注目する6つの読みの観点

- ア 文章の種類や形態（ジャンル）
- イ 登場人物（人物像、人物相互の関係）
- ウ 構造・展開（「人物と状況設定・事件の発端・展開・山場・結末」、「起承転結」）
- エ 表現・叙述（場面についての描写、文体、人称）
- オ 意図（ものの見方や考え方）や題材（人・もの・こと）
- カ 作者（作者の生き方や考え方、作者に影響を与えた人・もの・こと）

小学校 国語

児童生徒質問紙【教科に関する設問】	【1】	【2】	【3】	【4】
国語の勉強は好きですか	24.1	34.7	26.9	14.3
国語の勉強は大切だと思いますか	62.7	27.6	6.6	3.1
国語の授業の内容はよく分かりますか	33.4	46.7	15.3	4.5
読書は好きですか	52.0	22.5	14.8	10.6
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	51.1	34.1	10.6	4.1
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	16.9	37.0	35.4	10.6
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか	17.7	36.3	34.1	11.9
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	27.0	40.3	25.3	7.3
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいますか	32.9	40.2	20.5	6.4

【1】 当てはまる

(単位は%)

【2】 どちらかと言えば、当てはまる

【3】 どちらかと言えば、当てはまらない

【4】 当てはまらない

<設問分析>

- 「国語の勉強は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、58.8%（「当てはまる」は24.1%）となっており、全国平均を0.9ポイント上回っている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は64.6%である。今後は、児童の興味関心を引き出し、意欲を高める指導をさらに工夫していくことが求められる。
- 「国語の勉強は大切だと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、90.3%となっており、全国平均を0.7ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は92.2%である。今後とも、言語活動の充実を図り、児童が主体的に学び、実生活に生きて働くような学習を工夫することによって、国語の学習の意義や価値を実感するような授業を行うことが求められる。
- 「国語の授業の内容はよく分かりますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、80.1%となっており、全国平均を0.2ポイント上回っている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は84.2%である。今後は、児童が意欲と見通しをもって学ぶことができるような学習過程、基礎的基本的な指導事項の習熟とともに、児童一人一人の実態に応じた指導の充実を図ることが求められる。
- 「読書は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、74.5%となっており、全国平均を2.4ポイント上回っている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は76.3%である。札幌市では、

一斉読書の推進に取り組んでおり、小学校での実施率は100%である。今後とも、国語の授業だけではなく、様々な機会を通して、児童の読書活動の一層の促進に取り組むことが求められる。

- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、85.2%となっており、全国平均を2.0ポイント下回っている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は88.3%である。今後、日常生活に生きて働く言語活動を通じた指導の充実を図るとともに、児童が国語の学習の有用性を実感できる指導を工夫・改善していくことが求められる。
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、53.9%となっており、全国平均を5.5ポイント下回っている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は57.9%である。今後は、資料から得た事実や情報を基にそれらに関係付けながら自分の考えを明確にし、話したり書いたりする言語活動を工夫することが求められる。
- 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、54.0%となっており、全国平均を3.3ポイント下回っている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は57.5%である。今後は、目的や意図に応じて児童が自分の考えをもち、さらに相手に分かりやすく伝えるための工夫をしながら話したり書いたりすることができるような言語活動を位置付けていくことが一層、求められる。
- 「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、67.3%となっており、全国平均を1.6ポイント下回っている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は70.4%である。今後は、目的や意図に応じて、児童が自分の考えをもち、その理由を書いたり話し合ったりする言語活動を通じた授業を工夫することが求められる。
- 「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、73.1%となっており、全国平均を0.2ポイント下回っている。24年度の調査では、肯定的に回答した割合は76.6%である。「読むこと」の授業において、目的に応じて、事実と意見を区別したり、段落相互の関係を意識したりしながら読む指導の一層の充実が求められる。